

まちづくりの活動を報告する学生＝岐阜市柳戸、岐阜大



ヘルプマーク普及やドローン防災

岐阜大生、街づくり推進

授業で活動成果を報告

岐阜大の学部生科目の一つ「まちづくりリーダー実践」の報告会が20日、岐阜市柳戸の同大であり、学生18人がヘルプマークの啓発普及やドローンを活用した防災など、まちづくり団体と連携した活動の成果を報告した。

全学共通の教育科目で、学生は前期に座学、後期は実践に臨んだ。学生は7グループに分かれ、岐阜市の団体「ひとひとの会」、恵那、郡上市を拠点にドローンスクールを開く「ROBOZ(ロボッツ)」など六つのまちづくり関連団体とそれぞれ連携し、企画と

実践をした。

小中学校や企業にヘルプマークのポスター掲示を依頼する活動をしたグループは、岐阜市教育委員会や岐阜商工会議所などに働き掛けた意図を説明。「試算で5万人に知ってもらったことになる」と成果を語った。他のグループもそれぞれ、活動内容を紹介した。報告会には、各団体の関係者や、指導した高木朗義教授が出席。高木教授は「いずれの成果も誇るべきもの。活動をそれぞれ何らかの形で続けてほしい」と締めくくった。

(三輪真大)